# 活動名：限界集落の救世主!?～ヤギと歩む新たな農地管理のカタチ～

実績:449千円
【内訳】
委託費　128千円
借上料　165千円
備品購入費156千円

## 【活動目的・背景】

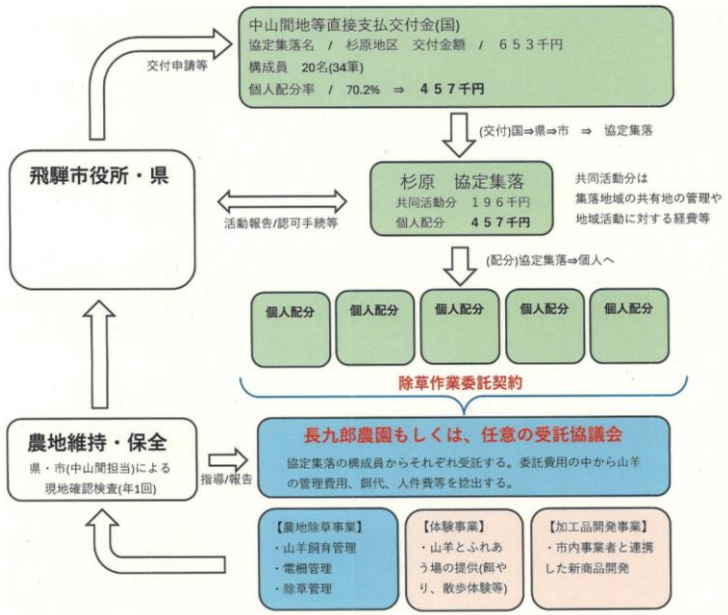
飛騨市宮川町杉原地区は、中山間地に位置する約20戸の小さな集落であり、高齢化が深刻となっています。地区には約2.5haの農地が存在しますが、担い手となる若者が少なく、農地の維持・管理が困難な状況にあります。

こうした課題を解決するため、本取り組みではヤギの放牧を活用した農地管理における省力化とコスト化を検証し、集落として持続可能な農地管理の仕組みづくりを目指します。

ヤギの放牧状況

## 【活動内容】

［ヤギの放牧による省力化の検証］
■検 証 者　長九郎農園　松永宗憲
■放牧期間 令和6年6月～10月
■種　　類　メスの山羊　2頭
■場　　所　飛騨市宮川町杉原地内
■検証内容　①ヤギ導入コスト
②ヤギの除草能力
③飼育管理の仕方
④地域の感触




【想定する持続可能な農地管理の仕組み】

## 【成果】

①ヤギの導入コスト
・2頭レンタル　110千円
・電柵　156千円

②ヤギの除草能力
・法面1000平米/約1カ月・2頭
・3mx15m（45平米）の法面を囲い検証した結果、葛は3日で無くなり、その他の草も10日で完了。（ただし、一部の草は残していた）→単純に1反（1000平米）に2頭放せば3週間できれいになる。

③飼育・放牧に必要な物、条件
・放牧地の日陰・夏場には大量の水
・鉱塩（銅を含むもの）
・干し草、飼料（夕方与える）
・下痢の際に桑の葉
・雨に当たらない寝床
・ヤギの顔のあたりに餌箱を設ける

④地域の住民の反応
・放牧されている姿は概ね好意的に受け入れられた。副次的効果として、住民間のコミュニケーション増加と、動物による除草という点で、多少の雑草は大目に見てもらえる。